

な気分でご...
有楽町らいいふ'86



MEIJI UNIV.
HARMONICA SOCIETY

第109回定期演奏会

11月15日(土)読売ホール

◀ごあいさつ▶

部長 北島 忠男



今から20年前、私がハーモニカ・ソサエティーの部長をお引受けした年の秋の定演（第72回）は神田共立講堂で、このときの部員数は55名、うち9名が女子部員でした。その後、ソサエティーの平均的部員数は45名をいどで、ときには40名を下回る年もありました。このところソサエティーは大世帯となり、部員数はいつも50名を上回るようになりました。特に今年は70名を超え、その3分の1が女子部員です。かつては演奏会へ出向かないと音楽に接することができない時代もありました。今はトランジスターラジオやカセットテープなども普及して、いつでも、どこでも音楽を耳にすることができます。最近では、音楽は聴くものから、さらに演ずるものへと変わってきたようです。ソサエティーの部員数の増加もそうした現れかもしれません。

ソサエティー20年の時の移りをみていると部員数ひとつをとってみても隔世の感があります。このように、ソサエティーもまたその音楽も、時代と共にすすみながら変わって行くものと思います。本日ご来場の皆様におかれましても、ソサエティーのこれからの20年の変化を暖かく見守り、いっそうのご支援を賜りますようお願い申し上げます。

OB会会長 布施 莊兵衛



我が明治大学ハーモニカソサエティーは、本日を以て第109回の記念すべき演奏会を開催するに至りました。これは日本では勿論の事、世界でも類例の無き輝かしい歴史であります。振り返ってみると、大正8年より10年の間はハーモニカ全盛の時代であり、明大に於いては6つのハーモニカ団体が存在しましたが、その中の明大ハーモニカバンド、夜間部の学苑会ハーモニカソサエティー等は、都内、地方に進出して拙劣な演奏で大恥をかいたこともありました。学内、学外の大部分の人達は唯一つの団体しか無いものと信じていた為、学校公認の我がソサエティーは多分にその被害を被ったことも有ったのです。しかし、やがて当部も都内は勿論の事、全国に活躍し、更には海外に迄活動を続けた事に依って其の名誉を快復する事になったのであります。

昭和10年頃には当部を除いた他の団体は消滅し、当ソサエティーのみの存在となり、以来連続として、長き星霜を経て今日に至ったのであります。

本日御来仰の皆さまには今后益々御声援の程 伏して御願する次第であります。

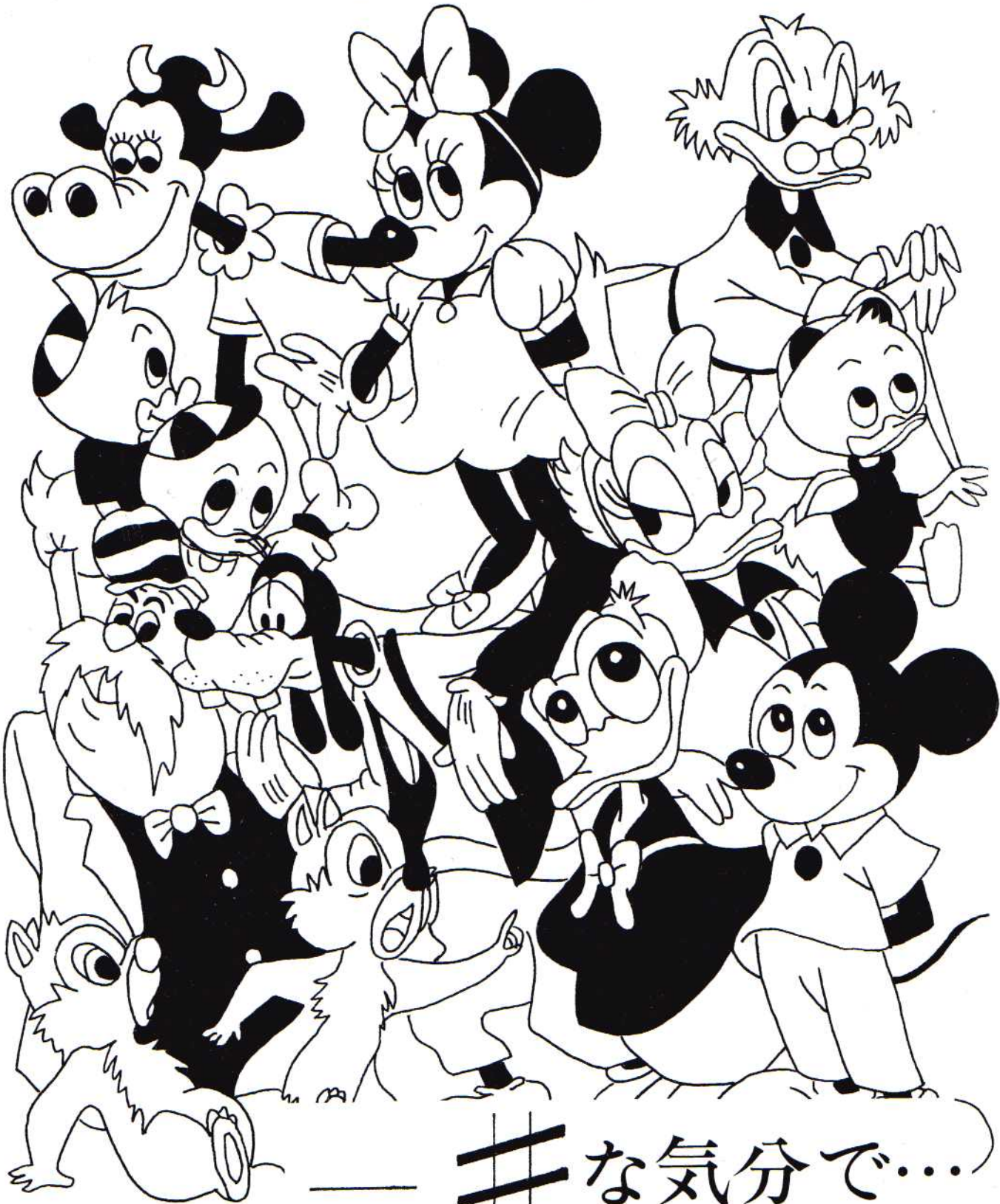
幹事長 吉田 牟 功



本日は我が明治大学ハーモニカソサエティー第109回定期演奏会におこしいただきまして誠にありがとうございます。当クラブは創部以来今年で68年目を迎え、結成当時と比べますと、演奏曲目や楽器の編成など時代の流れとともに大きく変わってまいりましたが、先輩方が築いて下さったすばらしい伝統を受け継ぎつつ新しいものも意欲的に取り入れ、部員一同、日夜練習に励んでまいりました。さて、「井な気分で…」と題しましたこのコンサート。今宵このひとときを、御来場の皆様にいつもとはちょっと違った気分、うきうきした“井な”気分楽しんでいただけたら幸いに思います。私達も今夜はあがっており、特別“井な”気分でおりますので、演奏中お聞き苦しい点がございますが、そこは明大ハモソの持ち味としてみんなでフォローし合い頑張る所存でございます。

最後になりましたが、この演奏会の開催にあたり、御指導、御支援を賜りました諸先輩、関係者の方々に厚く御礼申し上げます。

いっしょに、あそぼう。



— # — な気分で...

1st Stage



1. 時間の国のアリス

2. New York でサルサ

3. スカボロフェア

4. Left Alone

5. On the waves

6. We are all alone

7. PALM STREET

Quartet on Stage

2nd Stage

天国と地獄 / 雨に唄えば

明大ハモソ唯一の名物 ハーモニカ・カルテット 今宵は第19代目が初登場!

実力未知数 大器晩成 気力充分 大言壮語 暗中模索 紆余曲折

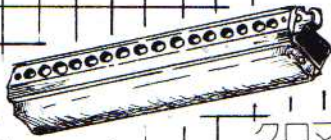
有言実行 因果応報 竜頭蛇尾 神経極太 乾坤一擲 大胆不敵

実は小心 前代未聞 むくつけき男四人組。只今女性ファン募集中!!

カルテット 楽器紹介

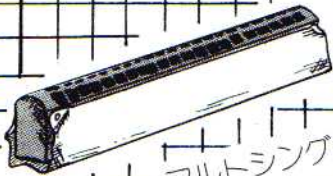
四年生 on Stage

「い一つのことおだかおもいだしてごらん
あんなことこんなことあったあよねえ〜
と、いうわけで、頼もしかった四年生も、本
日が最後のステージ。皆様、キャリアの味に
酔いしれて下さい。」



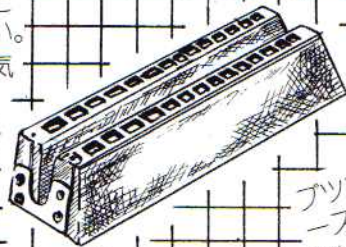
クロマチックハーモニカ

普段の演奏ではソリストが使用しているハーモニカである。レバーつきで、一つの穴から四つの音が出るというスグレ物。カルテットでは主旋律を担っているが、単に目立とうとしているだけである、という噂もなくはない。担当の小笠原宏喜は、その腰つきの妙な色気が四大中でも有名になった男である。



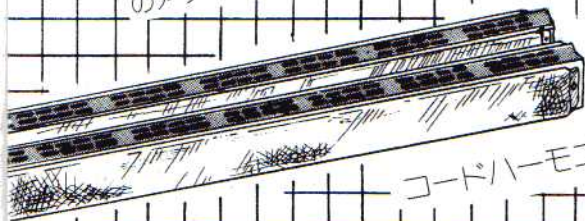
アルトシングルハーモニカ

舞台むかって右側の集団が吹いているのと同じ種類のハーモニカ。これも旋律を吹いているのだが、はっきり言ってウラメ口である。しかし、時に見られるロングトーンによるテロ行為に、アルトのいじらしさを感じるのには私だけだろうか。奏者・関口武志の、眼と指のアクションに注目して頂きたい。



バスハーモニカ

アツアツという超低音で、ベースの役割を果たす二段構えのハーモニカ。吹いているのは、実は指揮者の北村滋。普段は無愛想な背中演技だが、これを機会に可愛い顔も見てやって欲しい。カルテットの中で唯一冷静な彼が、ともすれば暴走しがちな他の3パートを抑える要めのリズムキーパーであることは否めない。



コードハーモニカ

和音の出せるバカ長いハーモニカ。バス同様リズム担当である。何を隠そう130万円の純銀製という噂だが真偽の程は定かでない。上下左右と口を広げて吹きまくる吉牟田功の努力は涙をさそう、が、ヨダレを垂らしつつ、身を折り曲げて喰らいつく姿は、やはり笑いを禁じ得ない。どうぞ笑って下さい。遠慮はいらない。

